

備後教区報

第 173 号
2021(令和3)年3月31日



ご縁を慶び、お念仏とともに



CONTENTS

◆視点

ネット（SNS）活用の現状

◆法話

◆僧侶研修会

◆NEWS&活動情報

◆予報・インフォメーション

視点

宗教界のネット(SNS)活用の現状と 利用にあたってのメリット・デメリット①

お寺では古くから「掲示伝道」という手法が使われてきた。通

りに面したお寺の掲示板に、法語やお寺の行事案内などが掲示されており、地域の方々は時折変わる掲示板を楽しみにしておられる。掲示伝道はお寺が地域社会へ発信する一つの方法であったが、今日においてはネットを活用することで全世界への発信が可能になった。この度はお寺におけるネットを活用した伝道のメリット、デメリットについて思索したい。(文責・教区報編集委員)

ホームページ

「ネットを活用」と言ってもその方法論は膨大でありますので、ここでは「ホームページ」「SNS」「デジタルマップ」「公式LINE」の4つに分けて話していこうと思

います。

まず、ネットで発信することを考えた際に最初に思いつくのが、お寺のホームページではないでしょうか。ホームページとはネット上に設けるお寺の紹介サイトのことです。ホームページを作っておくと、そこにお寺の紹介、行事案内や行事報告などを常に公開しておくことができます。一昔前はホームページの制作は専門の技術者しかできなかったこともあり、高額な製作費を支払ったうえ、更新するたびにお金がかかるようなことがありました。しかしながら現在は、無料で誰でも簡単に作れるサイトやアプリもあり、ハードルがかなり下がってきました。ホームページのメリットは、①ネット上に常に情報を公開できる。②お寺の信用度が上がる。③デザインの自由度が高い。ということが言えると思います。

①について、お寺の紹介、行事案内等がそこにまとめられているので、ご門徒さんにとってもとても有益なものになります。寺報などでお寺の年間行事をしておられる所も多いと思いますが、それが常にネット上に公開してあれば、更に利便性が高まると思います。もちろんご門徒外の方にも見ていただけるので、お寺を知っていただけのことだと思います。

②について、

一般論として公式のホームページがあるのは今日では当然のことです。むしろそれが無いのは信用に欠けると考える方も多いようです。特に新規でお寺を探している方にとっては、検索してお寺の公式な

情報が出てこないと困るのではないかと思います。

③については、お寺それぞれのニーズに合わせて好きなデザインで作成できるのがホームページの大きな利点だと思います。写真やイラスト、レイアウトなど自由に考える事ができるので、想いをそのまま形にできます。

逆にデメリットは

①作成が困難。
②更新が困難。
③お金がかかる。
④見てもらい辛い。
⑤言えると思います。

①について、自由度が高いがゆえに作成が難しいと言えます。で

浄土真宗本願寺 備後教区

ホームページ 近所情報 予定表 情報室 地図マップ お寺に参ろう 備後教区について

令和2年7月豪雨により
被災された皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます

備後教区教務所
本願寺備後教堂

更新情報(慶弔・活動のご報告)

2020.12.09 [嬉しい時も悲しい時もお寺に参ろう] コロナ禍における寺院活動実施状況調査並びにインターネット環境等に関するアンケート実施について

2020.11.26 [嬉しい時も悲しい時もお寺に参ろう] 2020(令和2)年度 本願寺備後教堂 報恩講 当日配信について(ご案内)

2020.10.27 [嬉しい時も悲しい時もお寺に参ろう] 2020(令和2)年度 本願寺備後教堂 報恩講法要動修について

2020.09.16 [嬉しい時も悲しい時もお寺に参ろう] 第40回 千鳥ヶ淵全戦没者追悼WEB法要 (ご案内)

2020.08.06 [嬉しい時も悲しい時もお寺に参ろう] 令和2年度 第25回「真宗講座」(ご案内並びにお詫び)

行事予定表(教務所・教化団体活動・法座のご案内)

2021年3月

▶ 備後教区ホームページ



きることが多いがゆえに困ります。

②について、せっかく作成しても更新がおろそかになると信用問題に関わってきます。また更新も専門知識を必要とするためハードルが高くなります。

③について、作成更新を専門業者に任せると大きな金額が必要になります。数十万円とかかる場合もあり、その場合のハードルはかなり高くなってしまいます。

④について、ホームページは利用者からのアクセスがあつて初めて見てもらえるものです。多くの方にアクセスしてもらうためには日々有益な情報を発信しなければなりません。ただ、ご門徒など有缘の方を前提に考えたホームページならばそれほど問題にはな

らないとも言えます。

SNSの導入

次にSNSです。Twitter、Facebook、Instagram、YouTube、LINEなど様々ありますので、一概には言えませんが、ホームページよりも導入のハードルがかなり低くお金もかからず多くの人の目に触れる機会があるので、まずはSNSを導入することをオススメしたいと思います。

①無料。

②簡単。

③よく見てもらえる。

④連絡を取ることができるといふ事が言えると思います。

①について、一部有料のサービスもありますが基本無料で運用ができます。無料ですから、まずやってみるといふチャレンジが容易です。

②について、一般ユーザーが容易に使えるように開発されているものですから、スマートフォンだけでも十分運用ができます。

③について、ホームページは利用者の方から来てもらう形になりますが、SNSは双方向で繋がる

ツールになりますので、こちらから一方的に見てもらふような発信ができます。場合によっては、桁違いの人数に届くような発信も可能です。

④について、この機能がとても有益で、更新に対するコメントという形で双方向でやり取りすることもできますし、ダイレクトメッセージのような形で個別にやり取りすることもできます。お寺では連絡手段が電話のみということが多いのですが、現在は電話よりもメッセージを送る事の方が一般化しています。お寺への連絡もSNSのメッセージ機能で完結できれば、お寺はメッセージの内容が残りミスを減らせますし、利用者は気軽に連絡ができるようになるという事で、双方にメリットが大きいと思います。

逆にデメリットは、

①情報が流れていく

②カスタマイズができない

③更新の頻度が比較的多く必要などがあります。

①について、ホームページと違いSNS上にはさまざまな情報が羅列されているので、自身の発信がどんどん流れていきます。多く

の人の目に付く半面その情報は簡単に消費されていきます。

②について、それぞれのSNSによつて違いはあるものの、カスタマイズできる項目は極端に少なく、個性を出すことは難しいです。また、一番見て欲しい情報を常に留めておくことは難しく、発信の仕方はブログや日記のような形になります。

③について、日記やブログのような更新になるので、それが滞ると印象が悪くなる可能性もあります。ボリュームは少なくともいいので週に何度かは更新することが必要になります。

グーグルマップ

次にグーグルマップです。最近飲食店の検索などもグーグルマップを利用することが多いようです。お寺においては特にグーグルマップが大切で、まず第一にグーグルマップにしっかり対応することが必要です。何故ならばもう既にどの寺院も掲載され、多くの方が既にその情報を利用しているからです。私が個人的に検索した結果、備後教区内のほとんどのお寺で放置されている状態です。



ホームページ、SNSとは違い勝手にレビューコメントがつけられて一人歩きしていきますので早急に対応する必要があると思います。

グーグルマップのメリットは、

- ① 無料。
 - ② 一番見られる。
 - ③ 更新が簡単。
 - ④ レビューがつく。
- と言えると思います。

①について、言うまでもなく導入におけるコストがかららずに始められるので安心です。

②について、スマホを使っている人の多くは場所の検索をグーグルマップで行います。また通常のブラウザ検索でも上位にグーグル

マップの情報ができますので、一番目に触れる媒体と考えていいと思います。一昔前は飲食店は飲食専門の評価サイトを重視していましたが、今はグーグルマップに示される情報も大きな集客ツールとして使用しています。お寺の情報も既に掲載されていますので早く対応すべきです。

③については、既にフォーマットが決まっているので情報を打ち込むだけでは反映されますし、画像を載せることも容易です。専門の知識を必要としないので誰でも簡単に更新ができると思います。

④については、誰でも簡単にレビューをかけるので良いことも悪いこともそのまま利用者の言葉が掲載され、またそのレビューにオーナーとして返信することができます。利用者と双方向のやり取りができ、それが可視化されることで一般に開かれた寺院であることがアピールできると思います。

グーグルマップのデメリットは
① オーナーとして更新するには登録が必要。
② 悪いレビューも掲載され消すことができない。
ということです。

①については、「Google マイビジネス」という専用のアプリからオーナー登録しないと、寺院の代表者として更新したり返信したりができません。オーナーとして認めてもらう為にはいくつかのハードルを超えなくてはいけませんので、少し手間がかかります。しかし、専門の知識は特に必要なく出てくる項目をクリアしていけば誰でも簡単に登録できます。

②については、これはレビュー機能が附いているサイト全てに言える事ですが、いい意見も悪い意見も素直に書かれてしまうのはお寺にとつてメリットともデメリットともいえます。またそのレビューは消す事は基本的にできないので、ずっと残り続けてしまいます。悪口のような投稿はグーグルに申請することで消すことができますが、かなり時間を要します。ただし、批判的なコメントに対して、紳士に対応する事で逆に信頼を獲得する事ができます。私も過去にグーグルマップで嘘ともいえるような批判を書かれたことがあります。それに対して謝罪と今後の対応を返信したところ、そのやり取りを見た別のユーザーが、

「信用に値するお寺である」と感じお越しになられたことがあります。グーグルマップについては使うか使わないかを選択する余地はなく、今既にマップ上に掲載されていますからそれを管理するか放置するかは二択になります。管理した方がメリットは大きいと思いますので、早急に対応されることをオススメします。

LINE (ライン)

最後に「公式LINE」です。LINEを使用されている方は既に多いと思いますが、LINEには「公式LINE」というサービスがあります。公式LINEを友達追加して下さった方だけに一方的に発信することができ、更に個別にやりとりすることができる便利なツールです。公式LINEのメリットは

- ① 無料。
 - ② 限られた方へ一斉に送れる。
 - ③ グループLINEと違って登録者同士が繋がらない。
 - ④ やり取りが残る。
 - ⑤ 気軽にやり取りができる。
- ①について、一か月に1000

仏法愛楽味



青年布教使による法話 第4回

奥組 浄福寺
山下 瑞円

「茄子の江戸煮」

1月30日は、祖母（前坊守）の一周忌の命日。家族で『正信念仏偈』をお勤めした後、お斎の精進力レーを食べながら、祖母、そして祖父（前住職）の思い出を語り合いました。

祖父は81歳の生涯でしたが、戦時中に患った結核の影響で、それ以後は片肺での生活。部隊が中国に駐留中、南方の激戦地へ赴く直前に発病し、日本へ帰国することとなりました。その当時、長女が3歳で長男が生まれたばかり。次女と次男（住職）は生まれておらず。終戦後に次女が生まれましたが、その後、長男がわずか7歳で往生。次男の誕生は、それから数年後のこと。祖父が40歳の時でした。その祖父が約25年前に、長女は15年前に往生しました。

祖母の99年の生涯には、たくさんの素晴らしい思い出と共に、2人の我が子、夫、8人いた兄妹

も全員先立つという、深い悲しみを背負い生き抜いた境涯でもありました。今思うに、祖母が日常申していたお念仏には、阿弥陀様のご本願のはたらきと共に、先立つてお浄土の仏様となった我が子や祖父、兄妹のはたらきを感じていたのだろうと。

晩年の20年は、認知症のご縁をいただき、最晩年は、お念仏を申すことすら出来なくなりました。そんな最晩年の祖母の姿を通して、この「孫は、寂しく感じながらも、自分で自分を忘れても、決して忘れず、決して見捨てず、」そのまま！そのまま



通までは無料です。1000通は一斉送信した総数になりますので、100件に一斉送信するなら10回まで使えるという事です。一般的には個人レッスンの講師などがよく使っています。足らないようならば有料版に切り替えることもできます。

②について、登録をしてもらった方だけに届くのでとても便利で。またしつかり通知がでるので見てもいいやすいです。私は土曜

学校の保護者向けに使っています。「明日の土曜学校には、はさみを持ってきてください」など簡単に一斉送信できるので重宝しています。

③について、個人のLINEを聞いてグループを作れば同じようなやり取りができますが、それだとグループに所属する全員がつながってしまいます。公式LINEはあくまで一対一のやりとりになり、横のつながりができませんので安心です。

④について、私は法事の予約なども公式LINEでうけています。やりとりがしつかり残るのでミスが少なくなります。電話だとメモを取らないといけません。LINEだと安心です。

⑤について、ご門徒からするとLINEでやり取りができるのはとても楽だと思います。電話するのは難しくてLINEなら気軽に聞けることもあります。電話以外

ま!」と、導いてくださる阿弥陀様のはたらきを、私の申す念仏の声を通して、理屈抜きで素直によろこんでいました。

親鸞聖人は、主著である『教行信証』の最後のところに、道綽禪師の著された『安樂集』を引文され、

「前に生れんものは後を導き、後に生れんひとは前を訪へ、連続無窮にして、願はくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽さんがためのゆゑなり」(『教行信証』後序)と、お示しになりました。

「前に生まれた人は後の人を『お念仏』の道に導き、後から生まれた人は、前に生まれた人に『お念仏』のみ教えを尋ねていきましよう。…それは、数限りない迷いの人々が残らず救われるためであるからです。」

この「孫」もその一人。読者の皆様もその一人。様々な因縁を通しての「お念仏」との出会い。お念仏とは、呪文ではありません。仏様のはたらきそのもの。

阿弥陀様が法蔵という菩薩であつた時、苦悩、煩悩を抱えたまま、心の苦しみ、悲しみ、よろ

こびまでも全て受け止め、縁に触れたら何が起るかわからない無常の命を生き抜く「私」を目当てとし、どんなことがあるうとも寄り添い、お浄土の仏様と仕上げなければならぬと願い、誓われました。その思いを、私の申す「南無阿弥陀仏」の声となり、今こそ、私の命に至り届けてくださいました。

祖母は料理が得意でした。私の思い出の料理は、茄子の江戸煮。それを食べて、「美味い!」と言ったのは私であるけれど、私に「美味い!」と言わしめたのは茄子であり、調理をした祖母。同じく、「南無阿弥陀仏」と言ったのは私であるけど、私に「南無阿弥陀仏」と言わしめたのは阿弥陀様であり、その阿弥陀様のはたらきをよろこんでいた祖母。そんな祖母も、99年の境涯様々な縁を通して子育てにあり、お念仏に出遇ったのでしよう。

命日の日。ひ孫たちが、見事に音程を外しながらも声高らかに『正信念仏偈』を拝読し、お念仏を申していました。家族でお勤めし、語り合ったひと時。とても贅沢な時間でした。

僧侶研修会

去る2月22日(月)、僧侶研修会が開催された。新型コロナウイルス感染症拡大対策として、会場を御調東組照源寺(久本晃道住職)から備後教堂に変更し、参加人数も制限し、ZOOMによる研修会となった。株式会社寺院デザイン・薄井秀夫代表より、調査結果を基に「環境の変化にお寺はどう対応すべきか」について講演いただいた。

仏事に関する調査

まず葬儀について。感染拡大防止という観点から、家族だけでなくはできるだけ少人数で行うケースが増えてきた。また、お通夜を行わない「一日葬」や火葬場での「直葬」が増えてきている。これらは新型コロナ以前から少しずつ見られていたが、その広がりが急速になっているとのこと。

次に、ご法事について。特に東京23区内においては、コロナ以前と比較して、ご法事の件数が半数以下になっている寺院が多い。全

国調査では、「この状況でもお寺にお願いし、親類も呼んできちんとやるべき」と答えたのが3.8%、「お寺にはお願いせず、仏壇の前で家族だけで手を合わせればよい」が31.5%、「この状況が続くなら、無理して法事はやらないでいい」が47.3%となっている。その中で対応策の「オンライン法事」について、調査では、「オンラインで法事を中継してもらい、家族は家でモニター越しに参加すればいい」は6.5%にとどまっている。築地本願寺の取り組みがおおいに注目をされマスコ



ミにも取り上げられたが、実際に築地本願寺で勤められた「オンライン法要」は30件程度だそうである。ただ、遠方から参ることが出来ない方々にとつての需要は、今後増えていくのではないか。「コロナ収束後は、僧侶を呼んでやりたい」が6割を超えている点は、評価するものであろう。

そもそも「葬儀」とは。奈良県・新庄町の野辺送りの様子を紹介したビデオを拝見した。それは現代とは正反対な場面が多かった。地域総出であること、一人ひとりが主人公であること、体験を伴っているため儀式の意味がわかりやすいこと、何度も体験するため伝承がされやすいこと、などの特徴が見ることが出来た。

薄井先生は、「社会構造の変化」「変化によつて生じている制度疲労」との点を強調された。しかも、その変化に善し悪しをつけるものではないともいわれた。対応する具体策として、「教え・教義を伝えることを一旦おく」ことや先祖をあの世に送ってほしい、先祖を大切にしたいという一般の方々の思いを大切にするところからはじめてみては、と提案してくださった。

現実とのギャップの対応

講義に続いて、佐武晃正教区過疎対策支援員(神石組光福寺)との対談となった。不活動宗教法人の国有化について、山陰地方のある浄土宗寺院の実例を紹介されたが、国が負の財産を抱えることになるので、この実例が今後拡がっていくことは考えにくい。不活動宗教法人の問題は、本来は、宗旨・宗派が地域の檀家・門信徒との調整、地元行政との調整役をするところが望ましいが、どの宗旨・宗派



においても難しい問題である。その中でも、本願寺派の支援策はかなり進んでいるほうである。若者の宗教行為を仏教界全体へ取り込めないだろうかという問いかけについて、薄井先生は、クリスマスが盛んだからといって、キリスト教が拡がっている訳ではないことを例に挙げた。伝統教団と現実のギャップはどこも悩んでいるが、教義における正しさをいう前に、人々が持っている「ご先祖さま有り難う」という気持ちをくみ取り、ハロウィン・初詣・墓参りなどをきっかけにすることは出来ないだろうか。お釈迦さまの誕生をお祝いのする「灌仏会」は、クリスマスに匹敵する行事になり得るのではないかと提起された。

研修会を締めくくって、栗原一乗広報伝道部長からは、「私たちが日頃の現場で薄々感じていたことを、はつきりとお示しくくださった。私たち僧侶とご門徒さんとの隔たりにも、気づかせていただいた。「わかつてくださっている」と思い込まず、儀式の意味など基本的なことから丁寧にお伝えしていくことの大切さも教えていただいた」とお礼の言葉が述べられた。

く 郷音 心 信

ほめる人もいる

けなす人もいる

しかし

その身になって

ほんとうの

ことを云って

くれる人は

なかなか

いないものです

News & 活動情報



寺派の布教と他宗派のもと、備後教区布教団・藤井義英副団長よりお話ししていた。

臨時総会・研修会

去る2月26日(金)、布教団では、部門別・実践運動研修会並びに臨時総会を本願寺備後教堂にて開催した。

まず実践運動研修会には、ビルマメラウー難民キャンプやウンニーウー学校支援の会、小武正教代表(三次組西善寺住職)より、難民支援の活動について、また活動からうまれる出会いについてお話いただいた。

次の部門別研修会では、龍谷大学文学部真宗学科講師 内手弘太師にオンラインにて出講いただき、「へともにも生きる」とは—近代真宗教学史から考える—の講題のもとお話しをいただいた。

研修会後の臨時総会では、翌年度予算について審議が行われ、すべての議案は議決された。

青年布教使研修会

去る1月27日(水)、本願寺備後教堂にて青年布教使研修会を開催した。研修では、講題「本願

連研

代表者・事務担当者協議会

去る1月28日(木)、オンラインにて開催された「連研」代表者・事務担当者協議会に、苅屋光影門信徒部会副部長、並びに担当職員が出席した。協議会では、本年度の取り組みについて報告があった後、午後からの全体会では、コロナ禍での連研開催状況や、開催に向けた方策、中央実習を修了された連研研修講師の在り方等も含め、意見交換が行われた。

ビハラー

心によりそう姿勢

去る1月30日(土)、第17回ビハラー活動全国集会在オンラインにて開催された。備後教区からは5名が参加した。

京都大学のやまだようこ名誉教授に、「喪失の語り—しなやかに生きる—」と題し基調講演をいただいた。人生を「もの語り」とみることで、悲しみを抱える相手の心に寄り添う姿勢や、自分自身の心の様子を見つめる大切さを学ぶことができた。



後半のシンポジウムでは、「自分さえよければ」という気持ちは誰にでもあるが、相手に対し関心をもつことが寄り添う姿勢につながっていく等、様々な意見が交わされた。

第4連区御同朋の社会をめざす運動

実践運動協議会

去る2月4日(木)、第4

連区(中・四国ブロック)の実践運動役職者を対象とした協議会を、備後教区担当のもと、各教区教務所をオンラインでつなぐリモート会議にて開催した。

研修では、戸松義晴全日本仏教会理事長にリモートにてご出講いただいた。「コロナ禍の世論調査から何を学び何をすべきか―代表役員としての社会的責任と門信徒(檀信徒)から期待される住職像―」と題し、全日仏が大和証券と合同にて実施された仏教に関する実態調査(2020年度臨時調査)の報告データ等を参照しながらお話いただいた。今後一層進んでいく少子高齢化社会のなかで、人口は確実に減少していく。既存のつながりを大切にするのはもちろんのこと、門徒とひとくくりせず、門徒一人ひとりの関係性を構築しながら、地域社会に根差した寺院運営の必要性を感じた。

研修後の協議会では、各教区の実践運動推進状況、また次年度に向けた展望等の情報交換を行った。



心によりそう姿勢

仏教壮年会

去る2月14日(日)、令和2年度仏教壮年会連盟中央研修会が、京都本願寺と各教区教務所をつないだオンラインにて開催された。備後教区からは、芦田組と世羅組から1名ずつ参加した。



お坊さんステーション

放送時間

月曜…午後6:10頃

木曜…午後6:10頃

FM77.7MHz  Radio BINGO

研修では、北山祐章仏教壮年会連盟講師(沼隈南組光源寺住職)に、仏壮会員としての姿勢やお聴聞の大切さ、そして、これからを担っていく世代の方々を育てていくためにも仏壮会員が重要な立場になっていくという内容のお話をいただいた。

午後からは班ごとに分かれ、それぞれの仏壮活動や、今後増えていくことが予想される災害に対し、どのような支援や活動の幅が考えられるかについて話し合いが行われ、各教区の状況や仏壮会員としての思いが語られる場となった。



同朋部会

憲法問題に関する研究会

2月24日(水)、同朋社会部会主催による「憲法問題に関する研究会」を開催した。

講師には、弁護士 石口俊一(法律事務所所長(広島弁護士会元会長))をお招きし、「憲法と人権、学問の自由と信教の自由を考える」をテーマに講義をいただき、参加者にとって学びを深める会となった。

Information

2021(令和3)年度真宗講座ご案内

第28回 6月9日(水)

第29回 8月25日(水)

第30回 2022年
2月2日(水)

『教行信証』

講師 安方哲爾 先生

会場 本願寺備後教堂

各法人からの県庁への書類提出期限は
7月31日です。

広島県の寺院 (電話 082-228-2111)

〒730-0011 広島市中区基町 10-52
広島県庁内 環境県民局 学事課

岡山県の寺院 (電話 086-224-2111)

〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6
岡山県庁内 総務部 総務学事課

未提出の場合、10万円以下の過料処罰金が発生します。お忘れなきようご留意下さい。

教区月報

24日	22日	20日	19日	15日	14日	11日	9日	8日	5日	4日	3日	1日	2月 (February)	30日	28日	27日	25日	22日	20日	18日	11日	1月 (January)		
朋社会部会	僧侶研修会	仏壮理事会	教区報専門委員会	おつとめ教室・勤式練習会	仏壮中央研修会	教堂常例法座	布教団長・副団長会議	法式法務専門委員会	門推世話人会	第4連区実践運動協議会	門信徒部会	第4連区布教団連絡協議会	第4連区教務所長会	ビハークラ全国集会	協議会	「連研」代表者・事務担当者	青年布教使研修会	寺婦三役会	賦課基準等調整常任委員会	布教団長・副団長会議	合同会議	広報伝道部会・専門委員会	おつとめ教室・勤式練習会	教堂常例法座

今後の予定 (2021年4～6月)

4月 (April)

- 4日 仏壮総会・研修会
- 8日 第4連区布教団連絡協議会
- 11日 教堂常例法座
- 13日 仏婦総会・研修会
- 20日 おつとめ教室・勤式練習会
中・四国ブロック少年連盟連絡協議会 (オンライン)
- 22日 仏婦総連盟総会 (オンライン)
- 25日 寺婦若婦人研修会
(比婆組圓正寺)

5月 (May)

- 11日 教堂常例法座
- 12日 寺婦役員会
- 13日 中・四国ブロック寺族青年野球大会
- 18日 おつとめ教室・勤式練習会
- 19日 仏婦役員研修会

6月 (June)

- 3日 ビハーラ備後総会・公開講座
- 9日 第28回真宗講座
- 10日 寺婦総会・研修会
- 11日 教堂常例法座
- 15日 おつとめ教室・勤式練習会
- 17日 布教団総会・研修会
- 18日 布教団夏期布教大会

メールアドレス

h2012@bingo.gr.jp

ホームページアドレス

http://bingo.gr.jp/

『教区報』の編集にあたり、皆様のご意見や感想、情報の提供をお待ちしています。教区報専門委員会まで、ご一報ください。

faxTEL (084) 924-5759
(084) 931-9323

常例法座

(毎月11日)
出講者(敬称略)

4月

「お念仏に出遇つて」

三次市 明玄寺 法宗正勝

5月

「真実信心うつる人は……」

福山市 照専寺 佐々木至成

6月

「私の不安って、何？」

福山市 善正寺 那須英信

教師授与

おめでとうございます
[敬称略]

三谿組 法専寺

加藤 崇司 (釋哲願)

令和2年11月20日付

敬弔

お悔やみ申し
上げます

[敬称略]

沼隈南組 善正寺 前坊守

那須 妙恵 (12月26日寂)

沼隈南組 寶光寺 前住職

明石 光麿 (2月7日寂)

香典返礼

ありがとうございます

沼隈西組 福照坊 前坊守

岡部 教子 (2月11日寂)

深津組 眞光寺 前坊守

尺采 テル子 (2月16日寂)

鴨川組 泉龍寺様

沼隈南組 善正寺様

沼隈西組 福照坊様



- 26日 憲法問題学習会
- 25日 常備会
- 26日 布教団研修会・臨時総会
- 3月 (March)
- 1日 連区教化連絡協議会
- 2日 ご縁づくり推進委員会
- 少年連盟役員会
- 更生保護小理事会
- 3日 ビハーラ役員会
- 門徒推進員研修会
- 4日 仏婦新旧役員会
- 5日 賦課基準調整委員全体会
- 8日 得度講習会(～9日)
- 10日 得度考査
- 11日 教堂常例法座
- 15日 おつとめ教室・勤式練習会
- 24日 責役総代会
- 25日 定期教区会
- 26日 組長会

得度習礼 得度講習会・得度考査



備後教区では、得度習礼前の事前講習となる得度講習会を3月8日(月)～9日(火)に開催し、得度習礼を予定する3名が受講した。

講習では、水上義乗教務所長による仏教の基礎及び宗制の大意についての講義、勤式作法では、和泉裕生教区勤式指導員、藤田徹信教区勤式指導員補佐の指導のもと講義や実唱を交え、受講者それぞれに学びを深めていただいた。

定期的な換気や実唱時も常にマスクを着用いただく等、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながらの講習会となった。

3月10日(水)には、得度考査を実施し、2名が受験、筆記や実唱、被着法等の試験を行った。



世間の風潮に従い、今号の編集会議は

オンラインで行われました▼画面に居並ぶ面々を前に、言葉を発するタイミングが取りづらく、まずは相手の発言に大きくうなずき、聞いてますよアピールから。意を決して発言するも、同じくタイミングを見計らっていた同席者と被り、お互い譲り合いに。正直、やりにくかったです▼人は、「時間」と「空間」を共有し、「仲間」となるそうです。画面越しでは、時間は共有出来ても、空間は仮想でしかありません。相手の呼吸は全く聞こえてきませんし、体温も一切感じられませんでした▼雑誌編集に長けた恩師から、「とにかく、面と向かってモノを言え」と、たたき込まれたのを思い出します。その会議では、建設的な主張をぶつけ合い、ケンカ腰になることも多々ありましたが、不思議と遺恨は残ってません。それでこそ、時間と空間を共有した仲間かなと。気に入らなければ、クリック一つで退席出来るオンライン会議。どうも馴染めないうです。(T・I)